

「家事スタイルに関する調査 2016」結果の速報

一 キッチン設備や家事まわりの道具は年々進化するが、 主婦が担う膨大なルーティン家事は変わらず、増大する負担感 一

株式会社日本能率協会総合研究所（代表取締役社長：加藤 文昭 本社：東京都港区）は、20～70代主婦を対象に、2016年5月、「家事スタイルに関する調査 2016」を実施いたしました。本調査は、主婦の家事全般に関するニーズをモノ・行動と価値観から検証するため、①調理行動と食品の購買・保存、②キッチン設備と後片づけ・掃除、③家の中の設備・掃除と洗濯、④家事全般の実態と意識について、網羅的に調査いたしました。その結果、下記のような実態が明らかになりました。
(http://www.jmar.biz/report/life/16_housework.html)

◆主婦の日常は、多岐にわたるルーティン家事を自分でこなす。

主婦目線では家事の分担は全く進まず。

自分で行う家事は、1位「洗濯機での洗濯」、2位「平日の夕食の用意」、3位「洗濯物を干す」、4位「洗濯物を畳む」、5位「掃除：キッチン・台所」の順で、これらは95%を超える。

◆家族が分担する家事は、たまに行う家のメンテや外回り中心。

若い主婦の家庭では“掃除・洗濯・後片づけ”の分担が増加中。

1位「電球の交換」、2位「ゴミを出す」が5割以上と多い。20代では3位「食器洗い・食事の後片づけ」が2006年38%から2016年43%に、5位「洗濯物を干す」が24%から32%に増加。

◆家事のやりがいにつながる意識は減少傾向。

家事への負担感増大、年々強まる“仕方なく感”&“時短意識”。

「家事は楽しみながら」は「とてもあてはまる」17%、「まああてはまる」45%。「家事は仕方なく」は「とても」16%「まあ」28%。「家事時間を減らしたい」は「とても」13%「まあ」36%。

◆30代以下の主婦に支持される「IHクッキングヒーター」。

40代以上の主婦は“火”を使う「多機能ガスコンロ」。

「ガスコンロ」は76%で、2006年から14ポイント減少。「IHクッキングヒーター」は20%で、12ポイント増加。「ガスコンロ」のうち「多機能ガスコンロ」は30%で、14ポイント増加。

◆着々と進化する「電子レンジ」。

主流は「フラットタイプ」の「800～1000W未満」。

2013年で最も多かった「600W未満(500W等)」は7ポイント減少し、2016年では「800～1000W未満(850W・950W等)」が最も多い帯域。

【調査概要】

- ・調査対象： 首都圏・中部圏・近畿圏に居住する、20～70代の主婦（既婚女性）
- ・調査方法： 日本能率協会総合研究所「モニターリサーチ・システム」利用による郵送調査
- ・有効回収数： 1,087人（発送数1,550人・有効回収率70.1%）
- ・調査期間： 2016年5月6日（金）～5月16日（月）

※時系列比較は、過去の調査対象と揃え、20～60代(有効回収数976人)で行いました。

《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所 消費者研究部 担当：土井
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル2階
TEL:03-6202-1287 FAX:03-6202-1294 E-mail:info_mlmc@jmar.co.jp

◆主婦の日常は、多岐にわたるルーティン家事を自分でこなす。
主婦目線では家事の分担は全く進まず。

選択肢に 54 項目の家事を挙げ、自分で行っているものを答えてもらいました。1 位「洗濯機での洗濯」、2 位「平日の夕食の用意」、3 位「洗濯物を干す」、4 位「洗濯物を畳む」、5 位「掃除：キッチン・台所」の順で、これらは 95%を超えていました。以下、8 割以上の主婦が回答した家事をピックアップすると、図 1 の通り、54 項目中 26 項目にも達します。

8 割以上が回答した項目の数は、図 2 の通り、60 代で最も多く 29 項目、20 代で最も少なく 22 項目と、それほど大きな年代差があるわけではありません。掃除・洗濯・食事の用意・後片づけと、どの家庭でも行うべき家事があり、主婦自身が行っている家事は 20 項目以上と、多岐にわたります。

一方、家事の家族への分担を聞いたところ、「ほとんど自分」と答えた人が 61%、「まあ自分が多い」が 30%と、合わせて主婦の 9 割以上は「自分」と答えており、「家族」との回答は 2%とごく少数です。

年代別に見ると、60 代・70 代で「ほとんど自分」が 5 割台、「まあ自分が多い」が 4 割弱となり、若干の家族への分担も見られます。とはいえ、年代による差はそれ程大きくはなく、主婦にとって家族が分担しているという実感は少ないものでした。

家庭の中には多岐にわたる家事仕事があります。既婚女性の多くは、主婦として、年代を問わずそのルーティンの家事をこなしています。家事のほとんどを担っているのは自分であると考えており、一部の家事を家族が分担していたとしても、分担できているという実感とは程遠いものがありそうです。

図1 自分で行っている家事(MA)

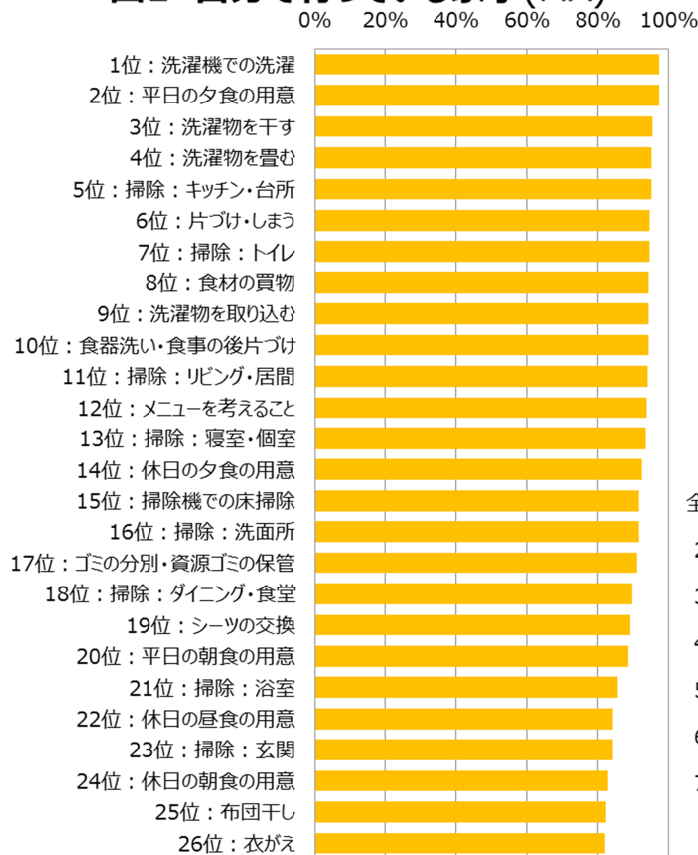


図2 「自分で行っている家事」

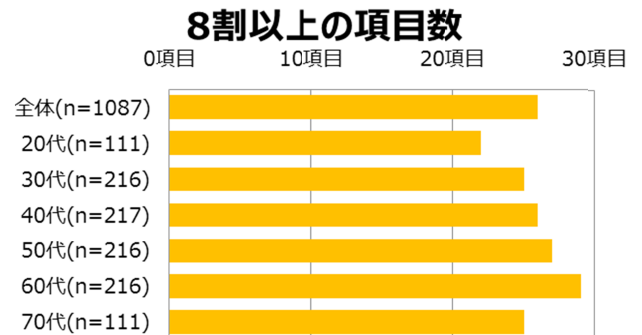
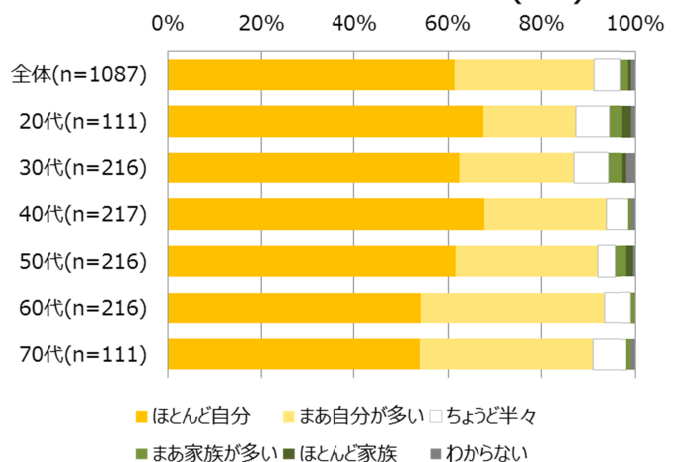


図3 家事の家族への分担(SA)



◆家族が分担する家事は、たまに行う家のメンテや外回り中心。
若い主婦の家庭では“掃除・洗濯・後片づけ”の分担が増加中。

家族が分担している家事を聞くと、1位「電球の交換」、2位「ゴミを出す」が5割以上と多いものの、以下「掃除：浴室」「洗濯物を取り込む」「日曜大工」「食器洗い・食事の後片づけ」は3割台にとどまり、分担はあまり進んでいるとは言えません。図4でピックアップした家族の分担が2割以上の項目をみると、頻度が高いとはいえ家のメンテナンスや外回りの家事が多く、日常のルーティン家事は“ゴミ出し”“風呂掃除”“洗濯物”程度です。

とはいえ、年代別にみると、家族への分担が増加している家事があります。各年代ごとに、2割以上の人が「家族が分担している家事」と答えた中で、2006年から2016年にかけて5ポイント以上増加した項目をピックアップしました。

20代では3位「食器洗い・食事の後片づけ」が2006年38%から2016年43%に増加、5位「洗濯物を干す」が2006年24%から2016年32%に増加しており、全部で9項目と各年代中最も多くなっています。その中身を見ると、ほとんどが“掃除・洗濯・後片づけ”といったルーティンの家事です。

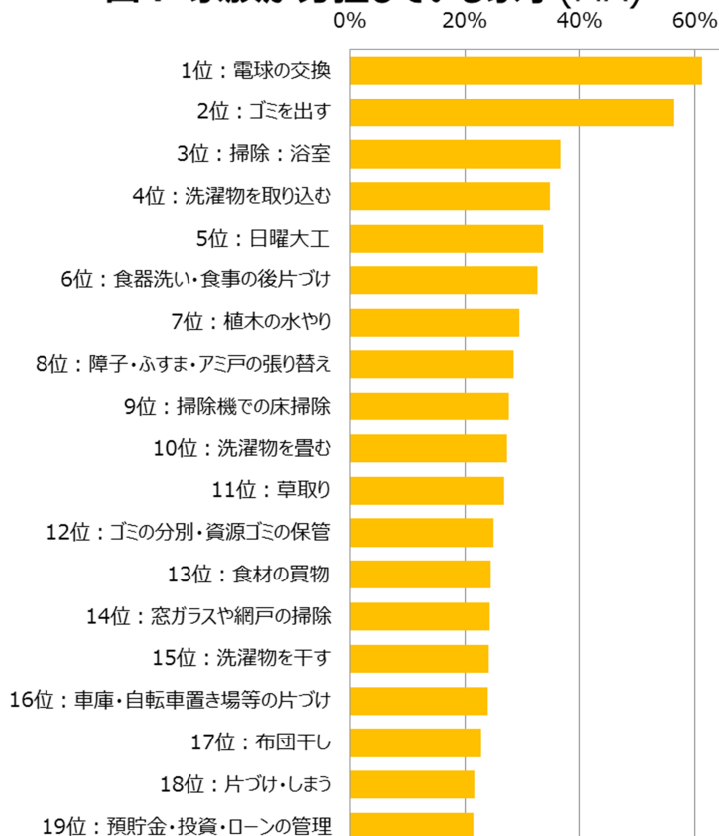
次いで多かった30代で挙げた6項目は、いずれも“ゴミ出し”と“掃除・洗濯”といったルーティンの家事です。

60代では5項目が挙がりましたが、ルーティンの家事は6位「掃除：浴室」くらいです。「まあ自分が多い」4割弱と家族への分担が高めの年代ですが、その内容はたまに行う軽微な家事中心でした。

一方、50代では2項目のみ、40代では該当がありませんでした。働き盛りの夫のいる年代では、家事分担が一向に進まないようです。

そのような中で、20代・30代の若い主婦の家庭では、確かに日常のルーティン家事の分担が進んでいるといえるようです。

図4 家族が分担している家事(MA)

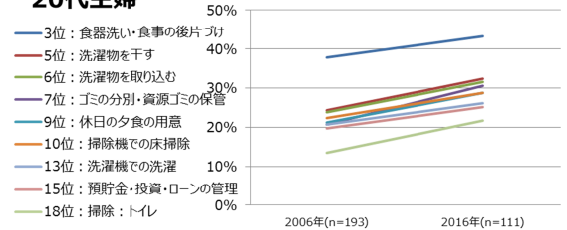


※2割以上の項目をピックアップ

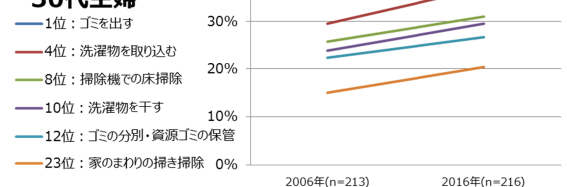
図5 家族への分担が増加した家事

※年代別に、2割以上の家事のうち2006年→2016年で5ポイント以上増加した項目をピックアップ

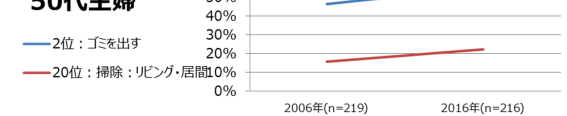
20代主婦



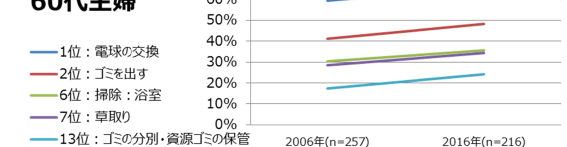
30代主婦



50代主婦



60代主婦



◆家事のやりがいにつながる意識は減少傾向。

家事への負担感増大、年々強まる“仕方なく感”&“時短意識”。

家事に対する考え方について、どの程度あてはまるかを聞きました。

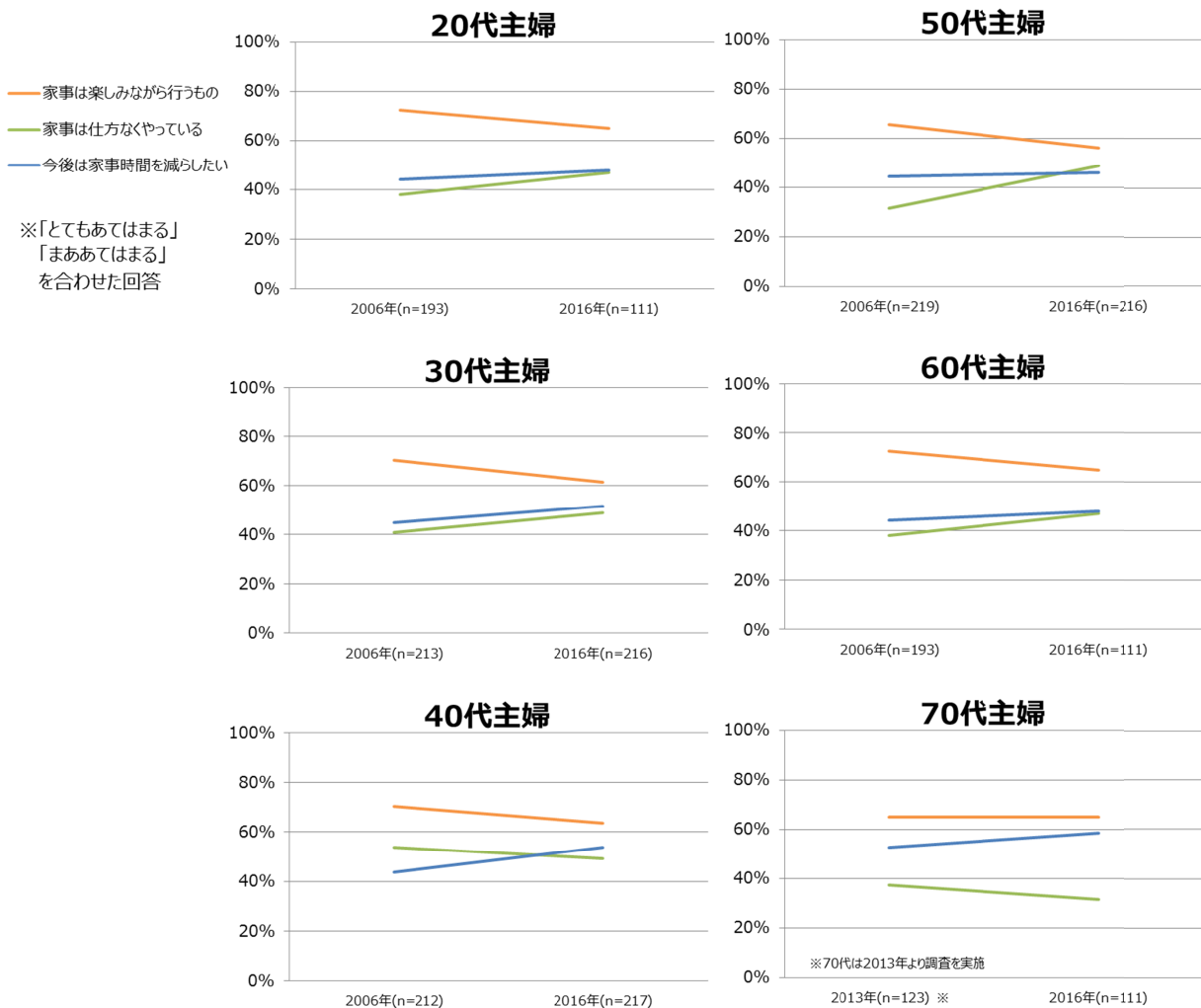
「家事は楽しみながら行うもの」という考え方に対しては、「とてもあてはまる」17%、「まああてはまる」45%と合わせて6割以上の主婦は家事に楽しみを見出しています。しかしながら、年代別に2006年から2016年の時系列でみると、どの年代でも家事を楽しむ意識は減少傾向にあり、特に60代では13ポイント減、50代では10ポイント減と、高い年代の主婦で意識の低下が目立ちます。

「家事は仕方なくやっている」という考え方に対しては、「とてもあてはまる」16%、「まああてはまる」28%と半数弱の主婦に家事の“仕方なく感”があります。2006年から2016年の時系列では、20代・30代・50代・60代で増加傾向がみられ、特に50代では17ポイントも“仕方なく感”が増加しました。

「今後は家事時間を減らしたい」という考え方に対しては、「とてもあてはまる」13%、「まああてはまる」36%と半数の主婦に時短意識が見られます。時短意識は、2006年から2016年ですべての年代で増加しており、特に40代では10ポイント増でした。また、時短意識は70代で59%と各年代中最も高く、家事のリタイア願望が見られました。

他にも、「家事は毎日こまめに行うものである」「家事にはセンスが必要だと思う」「家事は自分の力量を発揮できる場である」といった、家事のやりがいにつながるポジティブな意識は総じて減少傾向でした。仕方なく感や時短意識の増大が目立ち、家事に対する負担感は年々強くなっているようです。

図6 家事に対する意識 (SA)



◆30代以下の主婦に支持される「IHクッキングヒーター」。
40代以上の主婦は“火”を使う「多機能ガスコンロ」。

キッチン設備について聞いた中で、コンロのタイプを見てみました。

時系列で比較できる20～60代で見ると、「ガスコンロ」が76%と「IHクッキングヒーター」20%を大幅に上回っています。しかしながら2006年と比較すると、「ガスコンロ」は14ポイント減少し、「IHクッキングヒーター」は12ポイント増加しています。

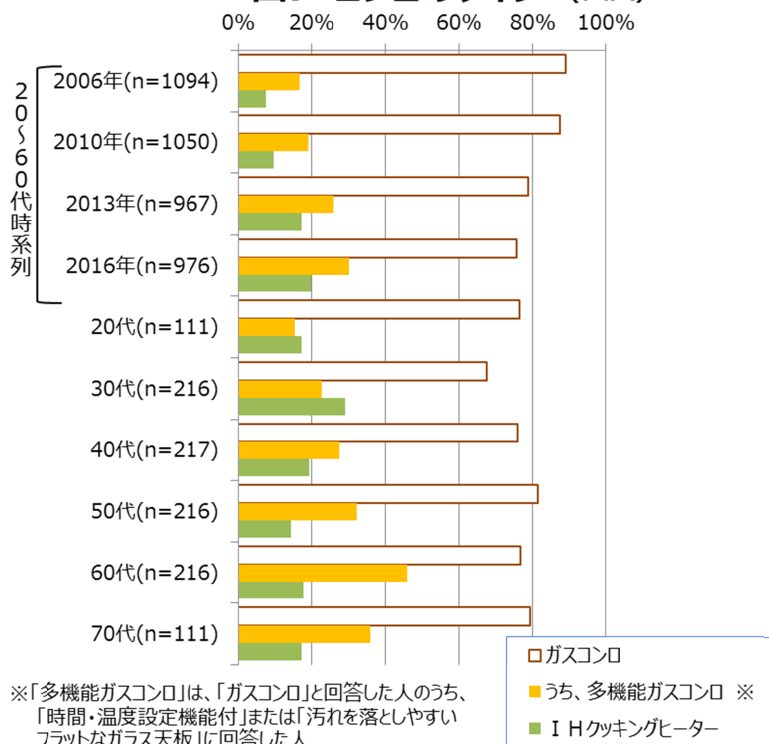
コンロの機能については「3口以上」「安全機能付」「時間・温度設定機能付」「フラットなガラス天板」が2006年から10ポイント以上増加し、コンロも高機能化が進んでいました。

「ガスコンロ」のうち、「時間・温度設定機能付」または「フラットなガラス天板」に回答した人のコンロを「多機能ガスコンロ」として集計したところ、保有は30%となり、「IHクッキングヒーター」の20%より優勢です。2006年からは14ポイント増加と、増加幅は同程度でしたが、2013年からで見ると、「IHクッキングヒーター」が微増にとどまったのに対し、「多機能ガスコンロ」は4ポイントの増加となりました。キッチンの中も、着々と最新設備に置き換わっているようです。

年代別に見ると、30代は「IHクッキングヒーター」が29%と各年代中最も高く、「多機能ガスコンロ」を上回っています。20代も「IHクッキングヒーター」の方が高く、若い主婦ではボタンやダイヤルで温度や時間を設定できる電気のコンロの方が好まれたようです。

一方、40代以上では「多機能ガスコンロ」が「IHクッキングヒーター」を上回っており、特に60代では「多機能ガスコンロ」の保有率が46%と各年代中最も高く、「IHクッキングヒーター」を30ポイント近く上回っています。2006年当時の60代は、「IHクッキングヒーター」の保有率が10%で各年代中最も高く、キッチンのリフォーム時に、安全性を重視した新製品「IHクッキングヒーター」をいち早く導入したようでしたが、近年では使い慣れた“火”で調理できる「多機能ガスコンロ」を選ぶ人が多そうです。

図7 コンロのタイプ (MA)



◆着々と進化する「電子レンジ」。

主流は「フラットタイプ」の「800～1000W 未満」。

電子レンジ・オープンレンジなどの加熱機器について見てみました。

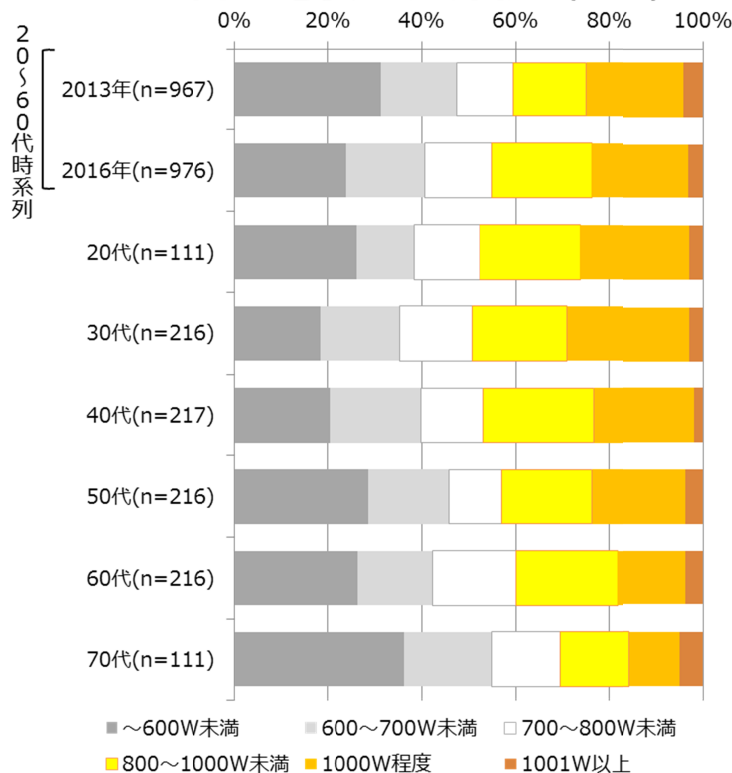
時系列で比較できる20～60代で保有率をみると、「オープンレンジ」が78%と最も高く、次いで「スチーム加熱レンジ」20%、「単機能の電子レンジ」12%を大きく引き離しています。「スチーム加熱レンジ」は2006年と比較すると、16ポイント増加していました。

電子レンジの最大レンジ出力を聞いたところ、2013年で最も多かった「600W 未満（500W 等）」は7ポイント減少し、2016年では「800～1000W 未満（850W・950W 等）」が最も多い帯域となりました。

電子レンジのタイプも、2013年では「ターンテーブルタイプ(回転皿あり)」が半数以上と主流でしたが、2016年では8ポイント減少し、「フラットタイプ(回転皿なし)」の方が主流となりました。

電子レンジ調理用の加工食品、インスタント食品のパッケージなどの使用説明には、500Wを想定し、回転皿のイラストが描かれていることが多いようですが、家庭にある電子レンジは着々と新しいタイプのものに置き換わっているようです。

図8 電子レンジの出力 (MA)



「家事スタイルに関する調査2016」は、20～70代の主婦を対象に、主婦の家事全般に関するニーズをモノ・行動と価値観から検証するため、①調理行動と食品の購買・保存、②キッチン設備と後片づけ・掃除、③水まわりや居室等の掃除・洗濯の家事、④家事全般の実態と意識について、網羅的に調査を企画・実施いたしました。

①《調理行動編》：普段の調理行動と調理方法、購買行動、食品の保存

食事づくり、食品の購入・保存・調理に、何を使い・何に困っているのか
ふだんの調理行動の実態とニーズ、調理意識、購買行動、食品の保存場所
ご飯の炊き方、調理家電・電子レンジ・オーブンの使い方、揚げ物・焼き物・蒸す調理

②《キッチン編》：キッチン設備と器具・道具、後片づけと掃除

キッチンには、何があり・何を行っているのか
キッチンの設備・機能、調理家電・調理器具の所有・使用・収納、
調理後の後片づけ・掃除・大掃除の実態と不満、気になる汚れ、キッチンに対する意識

③《掃除・洗濯編》：家の中の設備・掃除と洗濯

リビング・寝室の実態、気になる汚れ、掃除行動と使う用品
バス・洗面所・トイレの設備・機能の実態、気になる汚れ、掃除行動と使う用品
洗濯に使う用品の実態とニーズ、掃除に対する意識

④《家事スタイル編》：簡便化・外部化ニーズ&家事全般のまとめ

“家庭内のシゴト”意識&「調理行動」「キッチン」「掃除・洗濯」の総括・まとめ

これまで、2006年・2010年・2013年に「家事スタイルに関する調査」を実施しており、本調査はその継続調査です。

http://www.jmar.biz/report/life/16_housework.html

本調査は、主婦の“家の仕事”についての総合的な調査で、“イエナカ”マーケティングに必要不可欠な基礎調査データです。今回はその中から、「自分でやっている家事」「家族が分担している家事」「家事に対する意識」「コンロのタイプ」「電子レンジの出力」に焦点を当てて結果の速報を報告しております。

【調査購入のご案内】

本調査は、弊社自主企画による調査に複数企業にご参加いただく方式で実施し、以下のアウトプット一式を提供いたします。

①調査のアウトプット：

《調理行動編》《キッチン編》《掃除・洗濯編》《家事スタイル編》各編毎に

(1) 調査報告書：A4判・34～52ページ・2016年7月発行

(2) 集計結果数表：A4判・307～812ページ・2016年6月発行

(3) 集計データ(CD-ROM)：クロス集計、ローデータ、他

②購入費用：定価 各編 320,000円(税別)

MDBメンバー価格 各編 280,000円(税別)

※セット価格あり

※本調査の成果物の著作権は(株)日本能率協会総合研究所が保有します。

※弊社は、本調査にご参加・購入いただいた企業(法人・個人)以外には、成果物を提供いたしません。ただし、本調査を告知するための限定的な利用、及び発刊から一定期間経過後はこの限りではありません。

※本調査の成果物のご利用はご参加・購入いただいた企業(法人・個人)の内部でのご利用のみに限らせていただきます。

《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所 消費者研究部 担当：土井

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル2階

TEL:03-6202-1287 FAX:03-6202-1294 E-mail:info_mlmc@jmar.co.jp

本件引用の際は、お手数ですが、上記あてに掲載紙をご送付ください。